

令和7年度 独立行政法人地域医療機能推進機構調達等合理化計画

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、独立行政法人地域医療機能推進機構（以下「地域医療機構」という。）は、事務・事業の特性を踏まえ、PDCAサイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、令和7年度独立行政法人地域医療機能推進機構調達等合理化計画を以下のとおり定める。

1. 調達の現状と要因の分析

(1) 地域医療機構における令和6年度の契約状況は、表1のとおりとなり、少額随契を除く契約件数は4,312件〈※1〉、契約金額は1,407億円〈※2〉である。

また、競争性のある契約は3,397件（78.8%）〈※3〉、1,304億円（92.7%）〈※4〉、競争性のない随意契約は915件（21.2%）〈※5〉、103億円（7.3%）〈※6〉となっている。

令和5年度と比較して、競争性のない随意契約の総件数は21件増加した一方で、契約総額は67億円減少した。この主な要因として、昨年度に医療機器の保守およびシステム更新に関連する保守契約が多かったことが挙げられる。昨年度において複数年契約が締結されていることから、令和6年度の契約金額が減少したことが要因である。

令和6年度においても継続して「契約状況一覧表」の作成等を義務付けることで各病院の契約状況を把握し改善指導を徹底するとともに、安易な随意契約を防止する観点から、各病院に設置されている「契約審査委員会」による審議のほか、本部・地区事務所による事前点検を行い、契約事務の適正化を図った。

表1 令和6年度の地域医療機構調達全体像

（単位：件、億円）

	令和5年度		令和6年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(80.1%) 3,597	(90.1%) 1,535	(78.8%) 3,397	(92.7%) 1,304	(△1.3%) △200	(2.6%) △231
企画競争・公募	(0.0%) 0	(0.0%) 0	(0.0%) 0	(0.0%) 0	(0.0%) 0	(0.0%) 0
競争性のある契約（小計）	(80.1%) 3,597	(90.1%) 1,535	(78.8%) 〈※3〉 3,397	(92.7%) 〈※4〉 1,304	(△1.3%) △200	(2.6%) △231
競争性のない随意契約	(19.9%) 894	(9.9%) 170	(21.2%) 〈※5〉 915	(7.3%) 〈※6〉 103	(1.3%) 21	(△2.6%) △67
合 計	(100%) 4,491	(100%) 1,705	(100%) 〈※1〉 4,312	(100%) 〈※2〉 1,407	(△4.0%) △179	(△17.5%) △298

（注1） 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

（注2） 比較増△減の（ ）書きは、令和6年度の対令和5年度伸率である。

(2) 地域医療機構における令和6年度の一者応札及び応募の状況は、表2のとおりとなり、契約件数は489件（14.9%）〈※1〉、契約金額は327億円（25.7%）〈※2〉である。

主な理由として、派遣契約や医療業務委託契約において、新規人材の確保が難しい状況が想定される。また、内視鏡システム一式賃貸借（VPP）契約においては、一社証明が発行されないものの、結果的に一社独占となっているケースが懸念されている。

表2 令和6年度の地域医療機構の一者応札及び応募状況（単位：件、億円）

		令和5年度	令和6年度	比較増△減
2者以上	件数	3,022（85.4%）	2,796（85.1%）	△277（△0.3%）
	金額	1,171（78.4%）	944（74.3%）	△261（△4.1%）
1者以下	件数	516（14.6%）	〈※1〉489（14.9%）	△35（0.3%）
	金額	323（21.6%）	〈※2〉327（25.7%）	△5（4.1%）
合 計	件数	3,538（100%）	3,285（100%）	△312（△8.7%）
	金額	1,493（100%）	1,271（100%）	△264（△17.2%）

（注1） 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

（注2） 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った計数である。

（注3） 比較増△減の（ ）書きは、令和6年度の対令和5年度伸率である。

(3) 地域医療機構における令和6年度の契約類型毎に契約締結から履行開始までの期間（以下、「契約類型別準備期間」という。）を確保した件数は表3のとおりとなり、契約類型別準備期間を確保すべき件数3,274件〈※1〉のうち、3,041件（92.9%）〈※2〉を確保し、令和5年度実績と比較して、全体に占める割合は1.8%減少したが、目標の80%を達成することが出来た。

表3 令和6年度の契約類型別準備期間達成率（単位：件）

契約類型		必要準備期間	件数	達成数	達成率
①	物品物流管理（SPD）の委託契約	6ヶ月以上	16	12	75.0%
②	売店・食堂事業の委託契約	6ヶ月以上	0	0	0.0%
③	院内の給食業務の委託契約	6ヶ月以上	12	9	75.0%
④	駐車場の管理業務の委託契約	6ヶ月以上	1	1	100%
⑤	院内保育所運営業務の委託契約	6ヶ月以上	7	6	85.7%
⑥	院内の清掃業務の委託契約	6ヶ月以上	24	13	54.2%
⑦	医療事務業務の委託契約	6ヶ月以上	34	28	82.4%
⑧	警備業務の委託契約	6ヶ月以上	15	14	93.3%
⑨	送迎・運転業務の委託契約	6ヶ月以上	14	13	92.9%
⑩	施設管理業務の委託契約	6ヶ月以上	10	6	60.0%

⑪ (ア)	①～⑩以外の役務で期間が1年を超える又は繰り返し行われる役務	年額 3,000 万以上	6ヶ月以上	107	65	60.7%
⑪ (イ)	①～⑩以外の役務で期間が1年を超える又は繰り返し行われる役務	年額 3,000 万未満	1ヶ月以上	733	683	93.2%
⑫ (ア)	①～⑪以外の役務に関する業務委託・工事・請負・売買・賃貸借	年額 1,000 万以上	1ヶ月以上	1,274	1,184	92.9%
⑫ (イ)	①～⑪以外の役務に関する業務委託・工事・請負・売買・賃貸借	年額 1,000 万未満	1週間以上	1,027	1,007	98.1%
合 計				<※1> 3,274	<※2> 3,041	92.9%

(4) 地域医療機構における公募型企画競争による契約の公告期間を確保した契約の件数は表4のとおりとなり、件数48件<※1>のうち、確保した件数は47件(97.9%)<※2>であり、設定した全て達成するという目標を達成することが出来なかった。

表4 令和6年度の契約類型別公告期間達成率 (単位：件)

契約類型	必要 公告期間	件数	達成数	達成率
公募型企画競争	30日以上	<※1> 48	<※2> 47	97.9%

2. 重点的に取り組む分野（【 】は評価指標）

上記1の現状分析等を含め総合的な検討を行った結果、令和6年度目標である契約類型別準備期間の確保については目標を達成した。しかしながら、公募型企画競争による契約の公告期間を確保した契約件数の割合に関しては、目標設定が高い水準であったため、達成には至らなかった。

競争性のある契約については、応札業者が契約履行に向けた準備期間を十分に確保できるよう、令和7年度も引き続き応札業者の新規参入を促進することを目的に、契約類型別に契約締結から履行開始までの期間や公募型企画競争による契約の公告期間を確保することとする。

このため、本部・地区事務所が連携し契約案件ごとに毎月進捗状況を確認・指導等を行うことによって、継続的なスケジュール管理を徹底することで期間の確保を維持していく。

また、引き続き契約事務適正化への取り組みを併せて行い、公正性・透明性を確保しつつ、調達合理化を図ることとする。

【契約類型別準備期間を確保した契約件数の割合が80%を上回るよう取り組む】

【公募型企画競争による契約の公告期間を確保した契約件数の割合を全て達成できるよう取り組む】

(1) 契約事務適正化への取り組み

- ① 随意契約によることができる事由の適用について厳格化を図る。
- ② 複数業者が応札することが可能か精査する。
- ③ 必要に応じて参加資格要件を緩和し中小企業が参加しやすくする。

- ④ 本部が取りまとめた医療機器等の調達実績やベンチマークシステムの市場調査結果等を参考に適切な予定価格を設定する。
- ⑤ 仕様書等の見直しなど工夫することにより契約金額が前回より低くなるよう努力する。
- ⑥ 会計規程第 52 条に規定するもの以外の競争性のない随意契約が生じないよう指導・徹底する。
- ⑦ 事前点検の強化を継続して実施する。
- ⑧ ワーク・ライフ・バランス等の推進企業等が参加しやすくする。

(2) 契約類型別準備期間（契約締結から履行開始までの期間）

- ① 物品物流管理（SPD）の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ② 売店・食堂事業の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ③ 院内の給食業務の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ④ 駐車場の管理業務の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ⑤ 院内保育所運営業務の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ⑥ 院内の清掃業務の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ⑦ 医療事務業務（健康管理センター業務を含む）の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ⑧ 警備業務の委託契約 (4 ヶ月以上)
- ⑨ 送迎・運転業務の委託契約 (4 ヶ月以上)
- ⑩ 施設管理業務の委託契約 (6 ヶ月以上)
- ⑪ ①～⑩以外の役務で次にあげるもの
 - ・ 契約期間が 1 年を超える役務の提供
 - ・ 契約期間が 1 年を超えないものであっても繰り返し行われる役務の提供
 - (ア) 予定価格が年額 3,000 万円以上 (6 ヶ月以上)
 - (イ) 予定価格が年額 3,000 万円未満 (1 ヶ月以上)
- ⑫ ①～⑪以外の役務の提供に関する業務の委託契約、並びに工事又は製造の請負、財産の売買及び物件の賃借契約
 - (ア) 予定価格が年額 1,000 万円以上 (1 ヶ月以上)
 - (イ) 予定価格が年額 1,000 万円未満 (1 週間以上)

注：ただし、契約の特殊性や前回契約の状況を加味して、新規企業の参加を促進できるよう必要準備期間に十分配慮すること。

(3) 契約類型別公告期間

- ① 公募型企画競争による契約 (30 日以上)
- ② 上記以外の契約 (10 日以上)

注：ただし、政府調達の対象となる契約については 40 日以上を確保する。

3. 調達に関するガバナンスの徹底（【 】は評価指標）

(1) 随意契約に関する内部統制の確立

各病院は随意契約を締結することとなる案件については、事前に各病院に設置されている契約審査委員会において、会計規程で定める「随意契約によりことができる事由(会計規程第52条第5項の規定により随意契約によりことができる場合を除く。)」との整合性や、より競争性のある調達手続の実施の可否の観点から点検を受け、病院の契約審査委員会で判断しがたい場合は、各地区事務所に意見を求め、その意見を踏まえ、再度、病院の契約審査委員会で点検を受けることとしており、更には、「契約状況一覧表」の作成により、年間の契約の予定について、契約内容、契約方式等、個別契約の妥当性等を本部において事前点検し、改善指導を実施するとともに、計画の実施状況等について、本部と地区事務所が連携してフォローアップする。

また、医療機器等に予見不可能な故障が生じ、診療業務等に重大な影響が生じ得る場合その他の非常緊急の場合において当該機器等を直ちに修理する必要がある場合等止むを得ないと認められる場合においても、各病院の契約審査委員会における審議を行うとともに、事前に本部・地区事務所に報告を行う。【各病院等に設置されている契約審査委員会が適切に機能しているかどうかを、本部でモニタリングする。】

(2) 不祥事の発生の未然防止・再発防止のための取り組み

地域医療機構では、これまで各病院等に設置された契約審査委員会において、調達内容等について事前チェックを行うとともに、調達後は、本部に設置された契約監視委員会により一者応札及び一者応募又は100%落札入札等の事後チェックを行っている。

契約監視委員会においては、業務監査の任にある監事とも連携し、各施設の調達状況について、その意見も踏まえて遺漏なきを期す。【監事意見等】

また、契約事務実務担当者等を対象として、毎年研修を行っている。

4. 自己評価の実施

調達等合理化計画の自己評価については、各事業年度に係る業務の実績等に関する評価の一環として、年度終了後に実施し、自己評価結果を主務大臣に報告し、主務大臣の評価を受ける。主務大臣による評価結果を踏まえ、その後の調達等合理化計画の改定・策定等に反映させるものとする。

5. 推進体制

(1) 推進体制

本計画に定める各事項を着実に実施するため、管理担当理事を総括責任者とし、運営支援部経理課を中心に調達等合理化に取り組むものとする。

総括責任者	管理担当理事
メンバー	運営支援部長、経理課長、調達契約係長

(2) 契約監視委員会の活用

監事及び外部有識者によって構成する契約監視委員会は、当計画の策定及び自己評価の際の点検を行うとともに、これに関連して、理事長が定める基準（随意契約、一者応札及び応募案件など）に該当する個々の契約案件の事後点検を行い、その審議概要を公表する。

(3) 内部監査による確認

前記 2. 及び 3. の取り組みが適切に実施されているか業務監査の任ある監事と連携して内部監査時に点検・指導を行う。

6. その他

調達等合理化計画及び自己評価結果等については、地域医療機構のホームページにて公表するものとする。

なお、計画の進捗状況を踏まえ、新たな取り組みの追加等があった場合には、調達等合理化計画の改定を行うものとする。